

カボチャのめしべの頭は、なぜべとべとしているの



めしべの頭で花粉を受粉^{じゅふん}しないとたねができないので、花粉がくっつきやすいように、べとべとしているのさ。

めしべの頭（柱頭^{ちゅうとう}）に花粉がつかないと、たねはできない

植物にとって花は、実やたねをつかって、子孫を残す役割^{やくわり}をするためにあります。

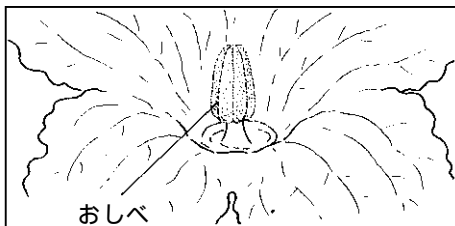
でも、めしべだけあっても、実やたねはできません。かならず、おしべから花粉を受け取らないと、実もたねもできないのです。また、ふつう、同じ花の中にめしべとおしべがあっても、同じ種類の別の株^{かぶ}のおしべの花粉を受け取り（受粉）ます。そうしないと、病気やかんきょうの変化に強いたねができにくいからです。

植物は動けないので、別の株の花の花粉は、こん虫などが体につけて運んだり、風が花粉を飛ばしたりして運びます。

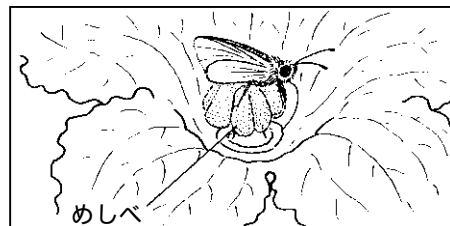
めしべの頭（柱頭）は、花粉がひっかかりやすくなっている

たいていのこん虫は、みつをなめに花にやってきます。そのとき、すばやく花粉が虫の体につくように、どの花も、花の形や、おしべのついている場所がうまくふうされています。花粉も、けんびきょうで見ると、とげとげが多かったり、ねん液や糸がついていたりして、ふれるとくっつきやすくなっています。

また、めしべの根もと近くにみつが出る花が多く、虫がみつをなめようとする、体についていたほかの花の花粉がめしべにふれ、べたべたした柱頭に、すばやく花粉がつくようになっています。



カボチャのおばな



カボチャのめばな